

市民の環境意識改革を果たす一考察Ⅱ

“パピルス草による水質浄化と水質浄化後のパピルス草の産業的利用への提言”
 社団 神戸パピルス研究所 代表 ○勝田久子 神戸大学農学部 助教授 脇内成昭

目的人類を育てた地球環境の保全活動は、世界的趨勢であり、現存する人類の責務である。前回は洗米排水等調理廃液の汚濁負荷量を削減する方策により、市民の環境意識改革を提言した。更に一步進めて、きれいな地球を子供達に残すために、身近な地域の水環境を改善し、浄化によって育成したパピルス草を原料として、非木材紙製作など、産業的利用を拡大することにより、自然と共生する市民の環境意識改革を進め、よって地球環境保全を推進することを目的とする。

方法パピルス（学名 *Cyperus Papyrus. L*）は河に育ったヴィーナスを意味し、古代エジプトの名声と富はこのパピルスによって築かれた。近年このパピルス草の優れた水質浄化能力が確認され、1日1株当たり窒素37mg、磷5.5mgの吸収量があり、栽培期間6ヶ月で窒素6734mg、磷1001mgの吸収量となる。その結果、水質は環境保全基準・農業用水基準に適合する程に改善されたのである。このパピルス草の水質浄化能力を使って日本各地の湖沼で水質浄化の臨床栽培を実施し、大量栽培にそなえて、株分け方法でしか繁殖しなかったパピルス草を種子発芽させ、パピルス草苗を育成し大量かつ計画的にパピルス草を群生さす技術開発に成功した。水質浄化を果たしたパピルス草は、カイロ博物館に展示されている古代紙を作成して、画紙、書道紙、色紙、名刺等に利用され、木材パルプよりも強度的に優れた和紙は、建築資材として壁紙、障子紙、襖紙、ブラインド、ランプシェイド、画仙紙等多方面に利用されている。

結果この乾燥パピルス草を原料にして、木材資源に代わるパピルス紙・パピルスパルプとして利用することにより森林破壊を防止し、地球環境保全を図ろうとする市民意識を育成している。